

適切な胃ろう管理のために PEG (胃ろう) ケアハンドブック

【監修】町立長沼病院 院長 倉敏郎 先生

【協力】札幌東徳洲会病院 院長 太田智之 先生

Introduction

ご利用にあたって

胃ろう(PEG)を用いての栄養管理は、他の栄養管理方法に比べ、患者さんの苦痛や介護者の負担が少ないというメリットがあります。しかし、胃ろうを快適に使うためには、正しいケア方法を身につけ、実践していくことが重要です。

この「胃ろうケアハンドブック」へ医療機関に必ず必要事項を記入して頂きましょう。そして、ハンドブックをいつもお手元に置き、日常のケアやトラブルが起きたときなどにお役立て下さい。また、医療機関を受診される時も、担当の医療従事者にハンドブックを提示し、患者さんと医療従事者の情報の共有にお役立て下さい。

ご本人情報欄

氏 名	(男・女)
生年月日	年 月 日
住 所	
電 話	()

もくじ

1 胃ろうとPEG 1

- お腹にあげたもう一つのお口
- PEG(ペグ: 経皮内視鏡的胃ろう造設術)とは?

2 胃ろうが必要な理由 2

- 十分に栄養を取るために
- その他の栄養投与方法とは

3 胃ろうの手術とカテーテル 3~4

- 胃ろうの手術 (PEG:ペグ)
- 胃ろうカテーテル

4 栄養投与の方法 5~10

- 準備するもの
- 経腸栄養製品のコネクタ形状変更について
- 栄養投与の方法
- 薬剤の投与 (簡易懸濁法)
- 投与前の注意点

5 日常のケア 11~16

- カテーテルケア
- カテーテル及び投与セットのフラッシュ
- 接続部の洗浄
- 清拭
- 入浴
- お口のケア
- 交換

6 トラブルへの対処法 17~20

- 漏れとただれ
- 詰まり
- カテーテルの抜け
- 誤嚥
- 便秘
- 下痢
- 吐き気・嘔吐
- 肉芽

7 胃ろうの記録簿 21~28

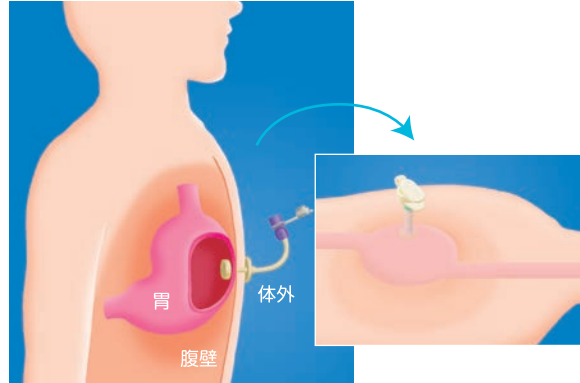
- 胃ろう造設の記録
- 胃ろう交換の記録
- 栄養投与の記録
- トラブルが起きたときの連絡先

1. 胃ろうとPEG(ペグ)

● 「胃ろう」とは、お腹にあけたもう一つのお口

胃に小さな穴を開け、そこにカテーテルと呼ばれる小さなストローのようなものを通し、そこから胃に直接栄養やお薬を投与したり、胃内を減圧^{*}したりするために使います。このお腹から胃に通じる穴のことを胃ろうといいます。

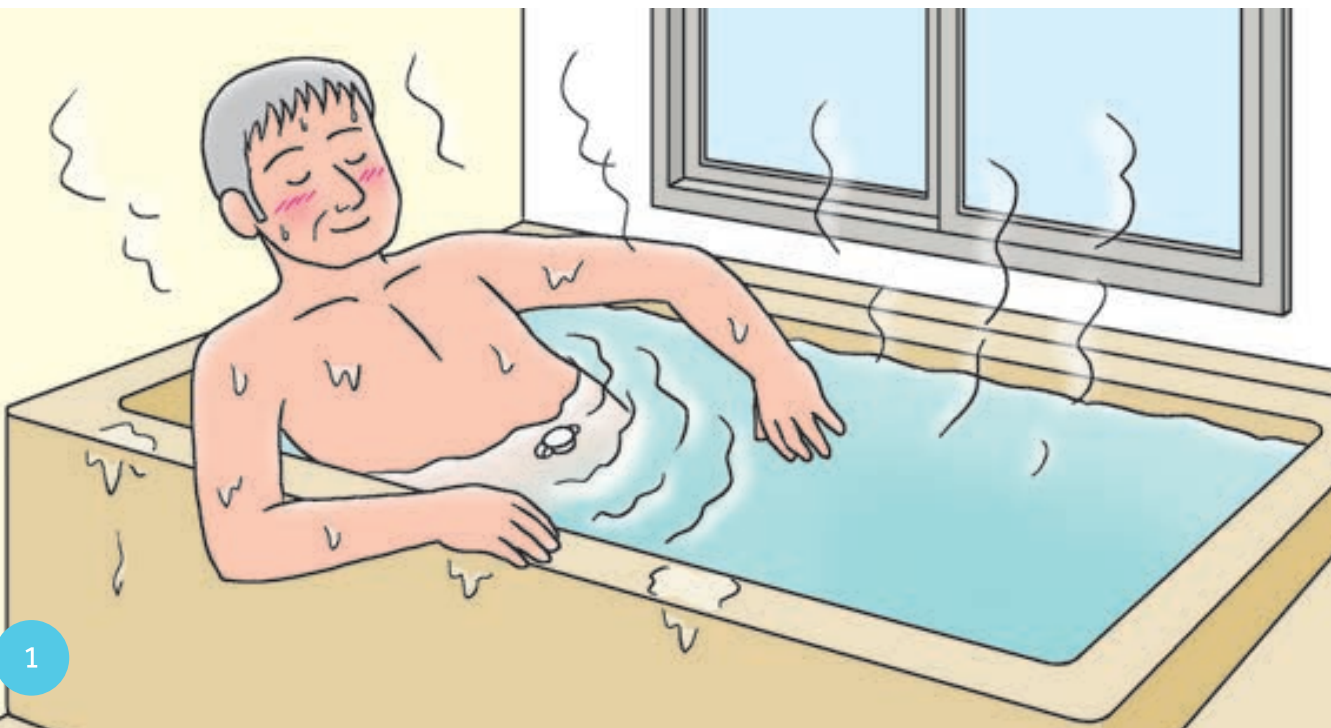
^{*} 腸閉塞などで胃と腸の流れがよくない場合に、胃ろうを使って胃の内容物を体外に逃すこと。



● PEG (ペグ:経皮内視鏡的胃ろう造設術) とは？

胃ろうを造るためには、内視鏡を用いて手術をおこないます。胃ろうの手術は、わずか15~20分程度で、患者さんに負担の少ない手技です。

- お風呂もそのまま入れます。
- 抜いてしまえば穴はすぐに閉じるので元に戻ります。ピアスと同じです。
- 在宅でも管理できます。



2. 胃ろうが必要な理由

● 十分に栄養を取るために

栄養がなければ体は衰弱し、栄養障害になってしまいます。うまく飲み込めないなどにより食事が十分に摂取出来ない場合、何らかの方法で栄養を投与する必要があります。それらの方法の中で、もっとも長期管理に適しているのが胃ろうです。

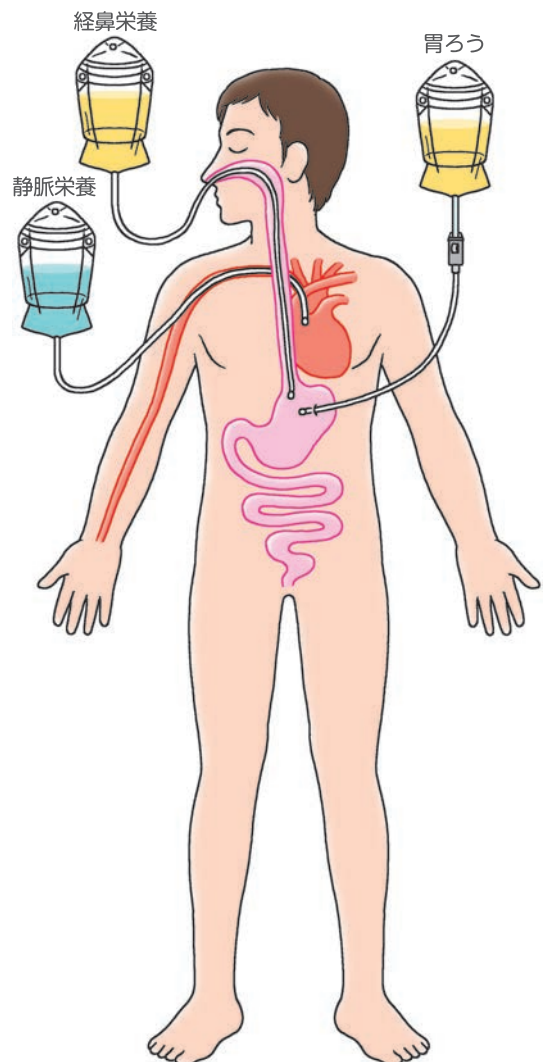
● その他の栄養投与方法とは

静脈栄養(点滴)

静脈に直接栄養を投与方法です。しかしながら、直接血管へ投与しているため、常に清潔に保っておかなければ、細菌が血管内に侵入した場合に敗血症にもなり兼ねません。また、長期にわたり消化管を使用しない状態が続くことになるため、消化管の機能が衰退し、消化管免疫機能が低下して、やはり感染を起こしやすくなります。そのため、消化管が機能しているうちは消化管を使うのが一般的ですし、生理的です。

経鼻栄養

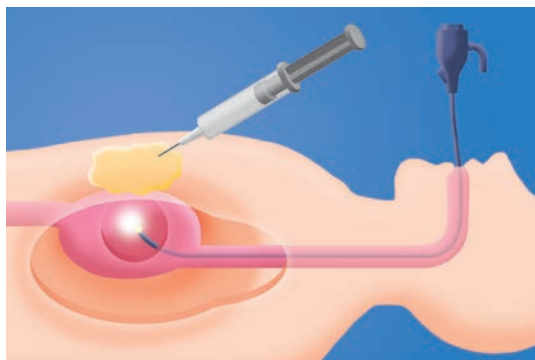
鼻からチューブを入れて胃まで送り、そのチューブから栄養を投与方法です。常時、鼻や喉に違和感がある状態が続きます。また、飲み込みのリハビリを行う際にも邪魔になります。1ヶ月以内の短期的な栄養投与に用いられます。



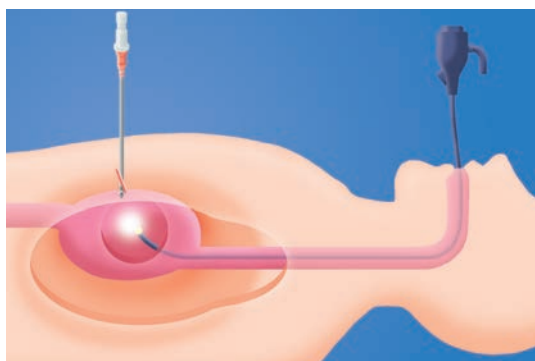
3. 胃ろうの手術とカテーテル

● 胃ろうの手術 (PEG:ペグ)

内視鏡を用い、麻酔も穴を開けるところだけにかけますので(局所麻酔)、患者さんに負担の少ない手術です。15~20分程度で終わります。



穴を開けるところだけ局所麻酔をします。



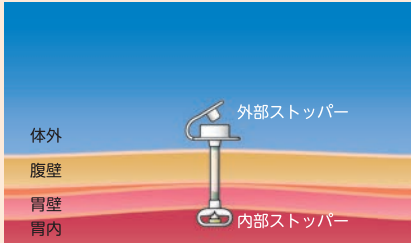
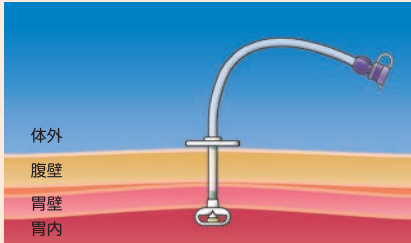
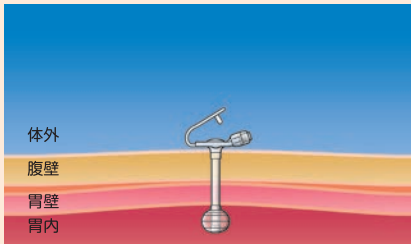
局所麻酔したところを1cmほど切開し、少し太めの針を刺し胃内まで道筋を確保します。



カテーテルを留置して終了です。

● 胃ろうカテーテル

胃ろうカテーテルの種類に応じて、使い方や管理方法が異なる部分があります。ご自身のカテーテルがどのタイプか把握しておきましょう。

		外部ストッパー	
		ボタン型	チューブ型
バンパー型	バンパー・ボタン型	 <p>ボタン型のため、肌からの突出が少なく、事故(自己)抜去も起こりにくいです。</p> <p>※ 交換は4カ月に1回を目安にして下さい。</p>	 <p>チューブ型のため、投与セットを接続せず経腸栄養ラインに接続することができます。</p> <p>※ 交換は4カ月に1回を目安にして下さい。</p>
	バルーン型	バルーン・ボタン型	 <p>ボタン型のため、肌からの突出が少なく、事故(自己)抜去も起こりにくいです。</p> <p>※ 1週間に1度、バルーン内の注水量の確認が必要です。 ※ 交換は1カ月に1回を目安にしてください。</p>

※ご使用の際は、必ず製品に付属の添付文書をよくお読みの上、正しくお使いください。

4. 栄養投与の方法

● 準備するもの

経腸栄養セット①
(①または②)

コンテナ + 経腸栄養ルート



経腸栄養セット②
(①または②)

経腸栄養バッグ



経腸栄養用
シリンジ

経腸栄養用シリンジ



ボタン型の場合
投与セット



投与セット



少量ずつ流す場合
経腸栄養ポンプ
(必要時)



経腸栄養ポンプ



● 経腸栄養製品のコネクタ形状変更について

2019年12月より経腸栄養製品のコネクタ形状が変更になりました。

変更点		
	旧規格	新規格
投与側		
胃ろう側		

新規格と旧規格が混在する場合		
胃ろうカテーテル → 新規格 投与セット → 旧規格	胃ろうカテーテル → 旧規格 投与セット → 新規格	
<p>胃ろうカテーテル <新規格></p> <p>変換コネクタ (メス・メス)</p> <p>投与セット <旧規格></p> 	<p>胃ろうカテーテル <旧規格></p> <p>変換コネクタ (オス・オス)</p> <p>投与セット <新規格></p> 	

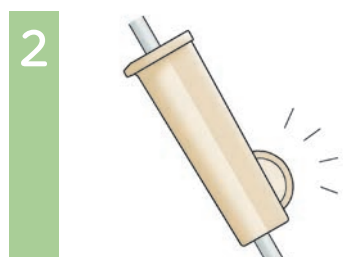
● 栄養投与の方法

手を石鹸などでよく洗い、よく乾かしてから栄養投与をはじめましょう。



上半身を 起こしてください

寝たままで投与すると、胃に入った栄養剤が逆流して誤嚥性肺炎を起こすことがあります。



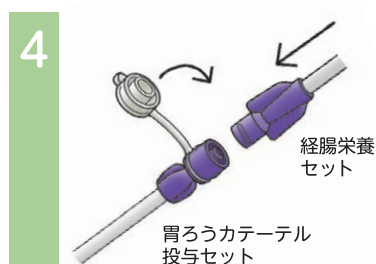
経腸栄養セットのローラーランプ (クレンメ) が閉じていることを 確認します

開いたままだと、栄養剤が流出してしまいます。

※ ローラーランプ (クレンメ) … 注入の速さを調節するもの。



栄養剤を 栄養容器に入れます



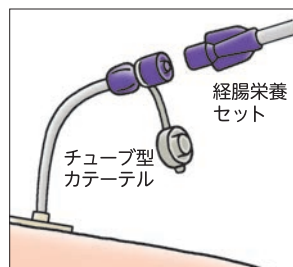
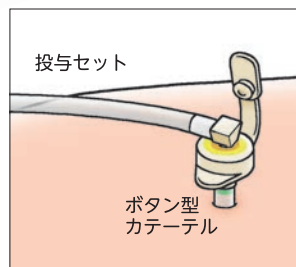
経腸栄養セットを 接続します

※ 場合により、栄養剤投与の前に水を投与することもあります。

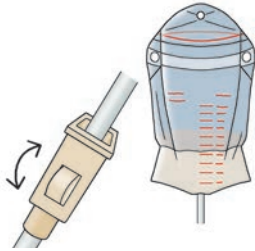
※ 接続されていることを確認してください。

胃ろうカテーテルが
ボタン型の場合

胃ろうカテーテルが
チューブ型の場合



5

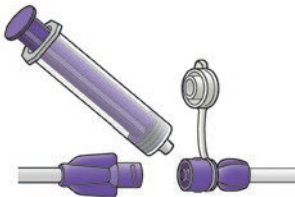


栄養剤を適切に 投与します

決められた投与速度通りに滴下しているか、時々確認しましょう。ローラーランプで投与速度を調節してください。

<薬剤投与の場合>

6



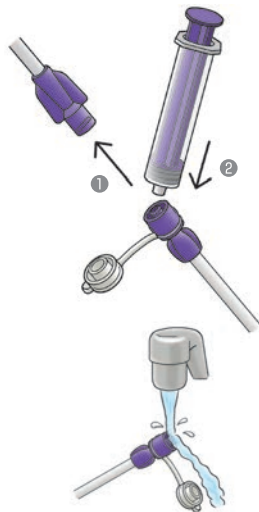
薬は微温湯20mLに完全に 溶かしてから注入してください

投与の前後に、経腸栄養用シリンジで微温湯を注入し、カテーテル内をフラッシュしてください。

※ 薬剤は、専用の経腸栄養用シリンジにておこなってください。

※ フラッシュ…洗浄すること

7



栄養剤が完全になくなった後 経腸栄養セットを外します

カテーテルに残留している栄養剤の残りは、微温湯約20mLを勢いよく注入して落とします。

カテーテル接続部の栄養剤や薬剤を取り除いてください。

8



しばらく上半身を 起こしたままにしてください

栄養投与が終了したら、注水口のキャップを閉じることを忘れないようにしましょう。

● 薬剤の投与（簡易懸濁法）

1



1回分の錠剤、散剤を全て直接
経腸栄養用シリンジに入れます

コーティング破壊が必要なものは、破壊後、
経腸栄養用シリンジに入れます。

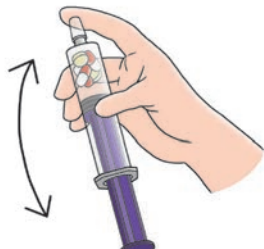
2



経腸栄養用シリンジに
55℃温湯を引き入れます

55℃温湯の作り方
ポットのお湯と水道水を2:1で合わせると、
約55℃の温湯ができます。

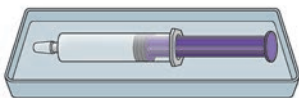
3



キャップをさるか指で
吸い込み口を押さえ垂直に
10往復回転(シェイク)させます

指で差し込み口を押さえる場合は、必ず使い
捨て手袋を着用してください。

4



薬剤が懸濁するまで
約10分放置します

時間が長すぎると配合変化や薬効低下が
起こる場合があります、注意が必要です。

5



注入時は経腸栄養用シリンジを
垂直に立て、薬を残らず投与します

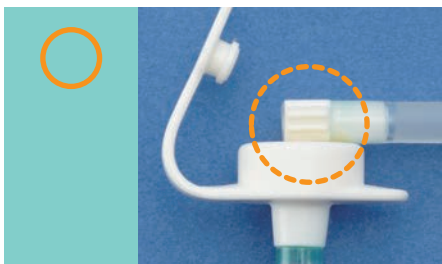
最後に白湯をフラッシュすると、カテーテル
内にわずかに残った薬液も胃内に入ります。
フラッシュをおこたるとカテーテルの詰まりの
原因となりますので、注意しましょう。

● 投与前の注意点

下記の点に留意し、投与をおこなってください。

投与セットの正しい接続方法

投与セットとの接続はしっかりはめてください。
しっかりはまっていないと外れる場合がありますのでご注意ください。

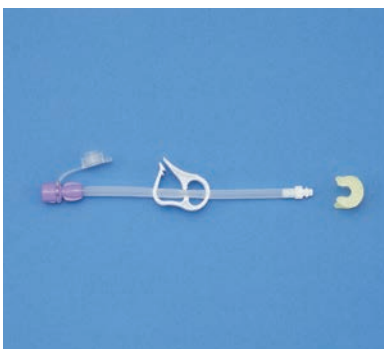


正しく接続されている状態



正しく接続されていない状態

半固形*栄養剤を投与する場合



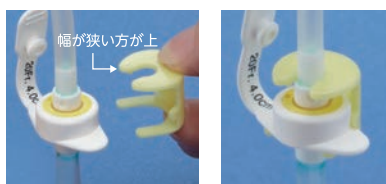
ボタン型の場合、
投与セットを変更すると、
半固形栄養剤が注入しやすくなります。

※ 半固形栄養剤とは、液状の栄養剤に寒天などを加えることでマヨネーズやヨーグルトのような状態にした栄養剤のことです。市販されているものもあります。

注入に大きな力が必要な場合には、短い投与セット(15cm)を使用すると注入しやすくなります。

※ ご使用の際は、医師にご相談ください。

■ クリップ装着の方法



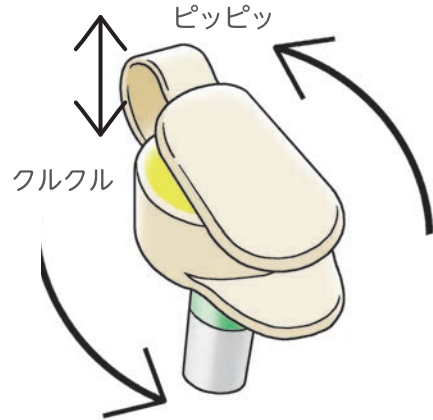
クリップの装着を忘れないでください。

5. 日常のケア ①

カテーテルケア

1日1度はカテーテルを回転させましょう。

栄養投与前に回転させましょう。



■ 胃内固定具がバンパー型の場合

<カンガルー ボタン II・カンガルー バンパーGチューブの場合>

胃内のバンパーが胃壁に埋もれてしまうこと*を予防・早期発見するために、栄養剤や薬剤投与の際、

- ① 抵抗なくスムーズに回転すること
- ② 上下に0.5～1.5cm程度動く(ゆとりがある)

ことを確認しましょう。動かない場合は、医療機関に速やかに連絡が必要です。毎日回転させ、無理なく動くことを確認しましょう。

※ バンパー埋没症候群

カテーテルがきつい場合に、血流が良くない胃粘膜の中にカテーテルが埋まってしまい、栄養剤が注入できなくなる合併症です。早期発見することで修復が可能です。

■ 胃内固定具がバルーン型の場合

<カンガルーバルーンボタン・カンガルーバルーンチューブの場合>

1週間に1度注水量を確認しましょう。医師の指示に従い、ルアーシリンジを使ってバルーン内の水を全て抜き、注入量の確認をします。その後、決められた量をあらためて、注水してください。

カンガルー バルーンボタン注入容量表

カンガルー バルーンチューブ注入容量表

カテーテルサイズ	バルーン容量
12Fr.	3mL
14Fr	4mL
16Fr.	5mL
20～24Fr	10mL

カテーテルサイズ	バルーン容量
12Fr.	3mL
14Fr	4mL
16Fr.	5mL
18～24Fr	10mL

※ バルーンへの注入は、滅菌蒸留水を使用してください。生理食塩液や水道水では詰まる恐れがあります。

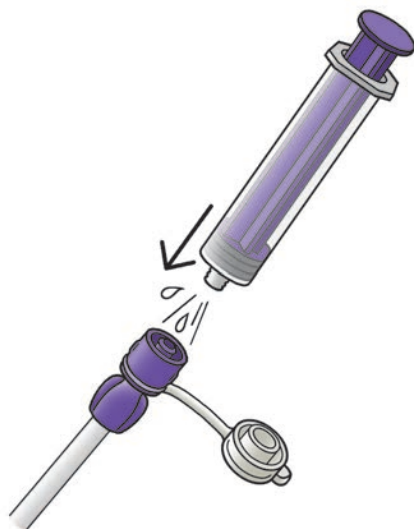
※ バルーン容量を超えて注水しないでください。バルーンを破裂させるおそれがあります。

カテーテル及び 投与セットのフラッシュ

経腸栄養用シリンジで
微温湯を注入し、
フラッシュしてください。

栄養剤や薬剤で、注入口が詰まったり、流れにくくなったりします。きちんとフラッシュしてください。

※ フラッシュ … 洗浄すること



投与セットのフラッシュは、頻繁におこなってください。

栄養／薬剤投与时	経腸栄養用ポンプ使用时
<input type="checkbox"/> 栄養投与の前と後 <input type="checkbox"/> 薬剤投与の前と後 <input type="checkbox"/> 栄養容器を交換したとき <input type="checkbox"/> 持続投与の場合は 閉塞を予防するために定期的に 温水などでフラッシュする	<input type="checkbox"/> 投与セットを ポンプから外したとき <input type="checkbox"/> ポンプを中断したとき

チューブ型カテーテル及び投与セット洗浄用ブラシとして、「PDNブラシ」がPEGドクターズネットワークから発売されています。

■ お問い合わせ先 NPO法人PDN(Patient Doctors Network)
 TEL 03(5859)5518 FAX 03(5859)5519

5. 日常のケア ②

栄養チューブとボタン型投与セット (またはチューブ型カテーテル) 接続部の洗浄

フラッシュ後に、
胃ろうカテーテルと栄養チューブの
接続部に栄養剤や薬剤が
残っていないか確認してください。

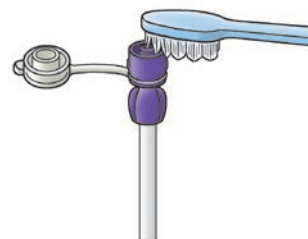
■ 胃ろうカテーテルがボタン型の場合

投与セットをボタン型カテーテルから外し、接続部分を流水でよく洗い流し、栄養剤や薬剤を取り除いてください。

栄養剤や薬剤が取れない場合は、ブラシを用いて、接続部の隙間をやさしくみがくと取り除くことができます。

■ 胃ろうカテーテルがチューブ型の場合

胃ろうカテーテルの接続部分を濡れガーゼでよく拭き、栄養剤や薬剤を取り除いてください。栄養剤や薬剤が取れない場合には、水を入れたコップに漬け、接続部分をゆすいでください。その際にブラシを用いて、接続部の隙間をやさしくみがくと取り除くことができます。



残留物の確認と胃内減圧について

<胃内減圧>

- 口から食べられる健常人でも「夕べ食べ過ぎてお腹がもたれて、朝食が食べられない」という場合がありますが、胃ろうをしている患者さんも同じようなことがあります。
- 胃内に残っている栄養剤や胃液を調べるため、栄養投与前に胃内の残留物の確認をおこなう場合があります。
- 吐き気や腹痛、膨満がある場合は、胃内に過剰な栄養剤、またはガスが溜まっている可能性がありますので、胃内減圧を行う方が良い場合があります。

<減圧方法>

ボタン型の場合 投与セットを接続してキャップを開放してください。



チューブタイプの場合は、そのままふたを開ける。



ボタン型の場合は、投与セットを接続し、投与セットのふたを開ける。

※ 逆流防止弁の位置によっては、減圧専用のチューブが必要な場合がありますのでご確認ください。

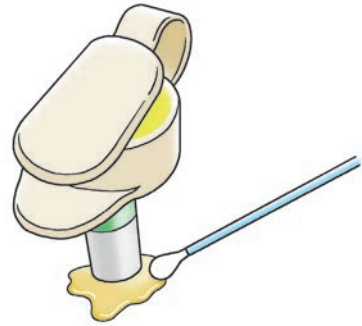
5. 日常のケア ③

Dry Bath

清拭

胃ろうの周囲は
つねに清潔に保ちましょう。

カテーテルを少し引き上げて清拭します。清潔で乾いている状態が好ましいです。



胃ろうは胃に通じているため、ろう孔から多少の粘液が出ます。それを皮膚に付着したまま放置すると、スキントラブルの原因になることがあります。毎日、綿棒やガーゼを微温湯で湿らせて、皮膚の汚れやカテーテルの注入口にたまった汚れを拭き取り、自然乾燥させましょう。

※ 特にろう孔にトラブルがなければ、消毒やガーゼの保護は不要です。

ドライヤーなどで乾かさないでください。

※ 熱風はカテーテルを変形させたり、皮膚トラブルの原因にもなりますので、使用しないでください。

Bath

入浴

特に保護することなく
入浴できます。



ろう孔をフィルム剤などでとくに保護する必要はありません。入浴やシャワーで胃ろう周囲をきれいに洗いましょう。洗った後はろう孔周囲の水気を拭き、しっかり乾燥してください。

※ 入浴やシャワーについては、医師の許可を得てからおこなってください。

※ 胃ろうカテーテルのキャップが閉じていることを注意しましょう。

お口のケア

毎日、口腔ケアを
しましょう。

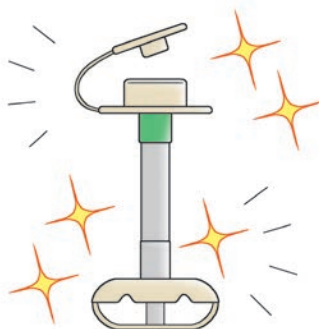


お口の中を清潔に保たないと誤嚥性肺炎などの原因になることがあります。また、経口摂取の準備としても大切です。適切な消毒薬・市販の液体はみがき・リンスを使って、歯・歯茎・舌を毎日清掃しましょう。

口腔ケアの具体的方法は、医療機関に指導してもらいましょう。

交換

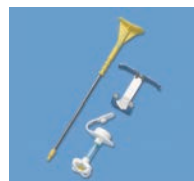
汚れのひどい
胃ろうカテーテルは
すぐ交換しましょう。



胃ろうカテーテルは定期的に交換する必要があります。
バンパー型は4カ月。バルーン型は1カ月が目安です。

次の交換予定日を忘れないよう、
交換の都度、ハンドブックに記録しましょう(P.21-P.26)。

※ 交換の際は、医療機関へご相談ください。



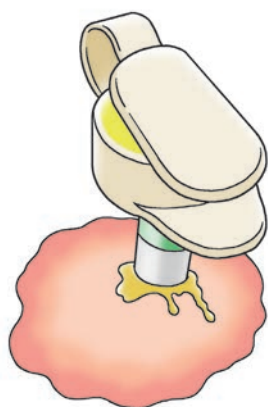
※交換の際、製品によっては専用のデバイス(用具)が必要な場合があります。

6. トラブルの対処法 ①

ご家庭でよく起こるトラブル例とその原因・対処方法をご説明します。原因や症状がよくわからなかったり、対処してみても改善が見られなかった場合は、かかりつけの医療機関・医師に早めに相談しましょう。

漏れとただれ

ろう孔から栄養剤や胃液が漏れて皮膚が赤くただれてしまった！



■ 胃内を減圧していますか？

胃内が栄養剤やガスで満たされることで、あふれることがあります。減圧チューブを使って胃内圧を下げてください。

(P.14下 参照)

■ 栄養剤の投与が速すぎませんか？

投与速度をチェックし、投与の速度を少し落としてください。

■ カテーテルのサイズは適していますか？

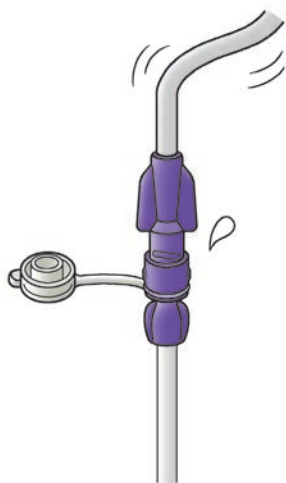
栄養摂取の状態によって、ろう孔が広がったり、カテーテルの長さが合わなかったりする場合があります。交換時に適切なサイズへの変更をおこなってください。

■ 少しただれた胃ろう周囲は清潔にし、乾燥させておくことが重要です。

胃ろう周囲が少し赤い程度ならば、ぬれたガーゼで胃ろう周囲をていねいに拭き、悪化を予防します。ただれが強くなったり、浸出物が多いときは、担当の医師・看護師と相談の上、創傷被覆剤(そうしょうひふくざい)などで保護が必要となる場合があります。

詰まり

栄養剤が流れにくい！



■ 投与セットが詰まっていますか？

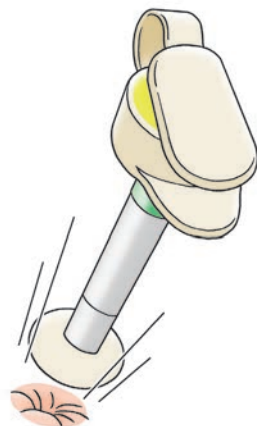
投与セットをカテーテルからはずして、内側をよく洗浄しましょう。

■ カテーテル本体が詰まっていることも考えられます。

チューブ型の場合、経腸栄養用シリンジに微温湯を5～10mL程度とり、勢いよく注入してください。ボタン型の場合は、投与セットを接続し経腸栄養用シリンジで微温湯を勢いよく注ぎ、付着物を取り除いてください。それでも栄養剤が流れにくい場合は、担当の医師・看護師に相談しましょう。

カテーテル抜け

カテーテルが抜けてしまった！



■ 担当の医師や看護師に連絡しましょう。

カテーテルが抜けると、ろう孔は数時間から1日で閉じてしまいます。担当の医師・看護師に抜けた場合の対処方法を確認しておいてください。留置方法を指導されている場合や留置ができる人がいる場合は、新しいチューブや膀胱留置カテーテルを緊急時の代用として取り付けてください。これを「ろう孔確保」といいます。その際、新しいカテーテルが胃の中に正しく入っていることを医療機関で確認してもらうまで、決して栄養剤・薬を注入しないでください。いずれにしても、担当の医師・看護師に速やかに連絡することが大切です。

夜間や休日の場合の緊急連絡先を予め確認しておいてください。

6. トラブルの対処法 ②

誤嚥

痰が多く、
喉の不快を訴えます。



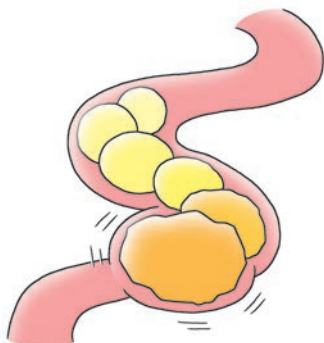
■ 食事の前に 必ず上半身を起こしてください。

寝たまま栄養剤を注入すると、栄養剤が逆流して気管に入り、誤嚥性肺炎を起こすことがあります。また、長期の場合、胃排出機能が低下してしまい、胃食道逆流の症状になるおそれがあります。栄養剤を投与する前に必ず上半身を30度か90度に起こしてください。できれば座った状態で投与することが望ましいです。逆流や誤嚥、痰が多いときは、医療機関に相談してください。

※ 誤嚥を抑制する空腸ろう用カテーテル(PEJ)もあります。

便秘

便が硬くて困っています。



■ 担当の医師と相談の上、 水分量・投与方法を調節してください。

水分量が少なかったり、栄養剤の注入方法が変わると便秘になることがあります。

■ どうしても改善されない場合は、 主治医と相談し、下剤で調節します。

排便の状況に気をつけて、下剤の量を調節してください。それでも排便がない場合、坐薬や浣腸が必要な場合があります。

便が出た日や便の状態、量を記録しておきましょう。

下痢

下痢がおさまらなくて
困っています。



- 栄養剤の温度が冷たすぎないか確認し、
投与速度を調節してください。

栄養剤を通しての食事は、通常の食事に
比べ水分量が多いので軟便になりやすい
ものです。栄養剤の投与速度を調節して、
ゆっくり摂取できるようにしましょう。
また栄養剤や投与器具の不衛生は、細菌
が増殖し下痢を引き起こすことがあります
ので、清潔な管理をおこなってください。
それでも改善がみられない場合は、担当の
医師・看護師に連絡してください。

吐き気・嘔吐

お腹がムカムカして
気持ちが悪い。



- おさまるまで、
栄養投与を止めて様子を見ます。

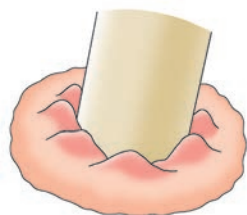
栄養投与中に吐いたり、吐き気がおさまら
ない場合は、投与を止めて様子を見ます。
おさまってから投与を再開します。

- 吐き気、嘔吐以外の
体調不良が見られませんか？

風邪や発熱などによって、からだを受け付
けない場合があります。全身の状態も注意深く
観察してください。嘔吐が続くようであれば、
担当の医師・看護師に相談してください。

肉芽

胃ろうの周りに粘膜が
赤く盛り上がっている！



- カテーテルが擦れないように
向きを変えてください。

カテーテルの固定や向きなどを工夫し、
擦れや片当たりをしないようにします。

- 医師に相談の上、ステロイド剤を
塗布することも有効です。

多くの肉芽は、放置してもかまいません
が、肉芽が大きくなり、痛みや出血を伴う
場合、医師に相談し、ステロイド剤を塗布
することも有効です。

7. 胃ろうの記録簿

● 胃ろう造設の記録

造 設 医 療 機 関 (病 院)	
住 所	
電 話 番 号	
手術した医師の氏名	
内視鏡医師の氏名	
造 設 年 月 日	年 月 日
メ ー カ ー ・ 製 品 名	社製・
キ ッ ト の 型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型
キ ッ ト の サ イ ズ	長さ cm 径の太さ Fr
造 設 の 目 的	栄 養 ・ 減 圧 ・ 他()
次回胃ろう交換の予定日	年 月 日
備 考	

● 胃ろうカテーテルの交換期間について

胃ろうカテーテル(P.4 参照)の交換は、バンパー型は4カ月、バルーン型は1カ月が目安です。なお、キットの不具合が生じた場合は、早めの交換が必要です。長期間交換しないでいると、カテーテル変形、変質、破損の原因ともなり、トラブルにつながることもあるので注意が必要です。交換時、カテーテルのサイズや型を変更したいときは、事前に医療機関に相談しましょう。

● 胃ろう交換の記録

1	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

2	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

3	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

Treatment History Record #2

● 胃ろう交換の記録

4	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

5	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

6	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

7	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

8	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

9	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

Treatment History Record #2

● 胃ろう交換の記録

10	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

11	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

12	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

13	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

14	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

15	交換年月日	年	月	日
	交換医療機関(病院)			
	交換した医師の氏名			
	メーカー・製品名	社製・		
	交換キットの型	(バンパー・バルーン)型 (ボタン・チューブ)型		
	交換キットのサイズ	長さ	cm	径の太さ Fr
	次回胃ろう交換の予定日	年	月	日
	備考			

● 栄養投与の記録

「おなかの小さな口」から、1日にどれだけの栄養剤(kcal)を何回に分け、どのくらいの時間をかけて投与するか、また水分の量やお薬の投与についても、納得できるまで医師の指導を受け、記入してもらいましょう。

水分は多すぎても少なすぎても体調をくずします。

1日の必要水分量とその補給の方法を医師に確認し、確実に投与しましょう。

栄養は毎日毎日のことであり、長期におよぶ管理が必要になります。患者さんの体調や病状も毎日一定しているとは限りません。時にはご家族の見守りが医療者の判断にまさることも少なくありません。患者さんに一番よい方法を、医療者の協力を得て、体験のなかから学習しましょう。

①	年	月	日
使用する栄養剤	メーカー()		
1日の摂取カロリー量	kcal(mL)		
1日の必要水分量	()mL	栄養剤以外に()mLを投与	
投与スケジュール			
投与速度	1時間あたり 1回あたり	mL 時間	(10秒あたり 分位 滴に調節)
備考			

②	年	月	日
使用する栄養剤	メーカー()		
1日の摂取カロリー量	kcal(mL)		
1日の必要水分量	()mL	栄養剤以外に()mLを投与	
投与スケジュール			
投与速度	1時間あたり 1回あたり	mL 時間	(10秒あたり 分位 滴に調節)
備考			

※ 水分はお茶やスポーツドリンク、よく濾した果汁なども投与できます。

※ 塩分が不足する場合は、塩〔 〕gを溶かして(朝・昼・夕)投与します。

※ 初めて投与する場合は、慣らすために1時間あたり〔 〕mLで注入します。

10秒あたり〔 〕滴くらいが目安です。

緊急連絡先	
-------	--

● いざというとき、あわてないための電話リスト

主治医、訪問医、訪問看護師、訪問リハビリやその他、入浴サービス、ケアマネージャー、ヘルパー、家族の連絡先など、普段よく使う電話番号を記入しておきましょう。

機関・施設名	担当科及び氏名	TEL & FAX	備 考
			主治医
			訪問医
			訪問看護師
			訪問リハビリ

カーディナルヘルス株式会社